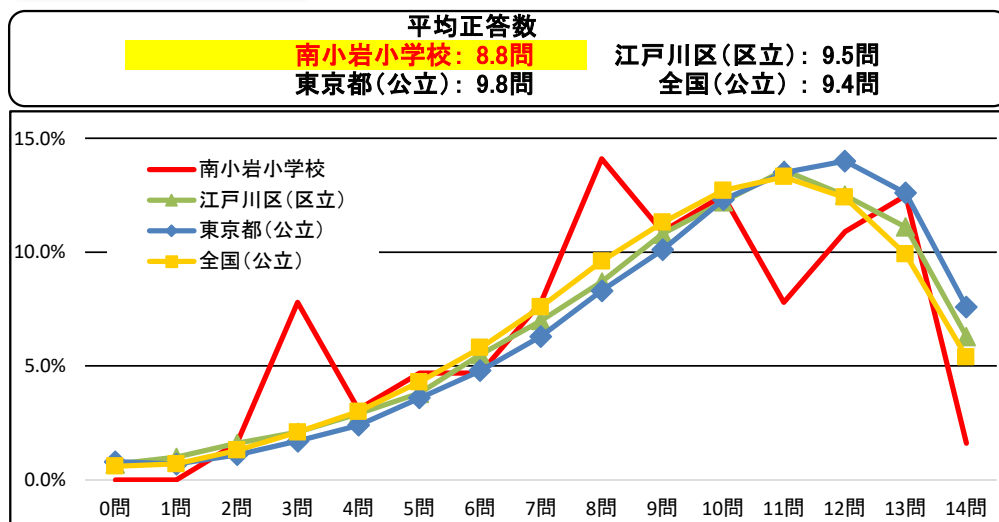


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立南小岩小学校

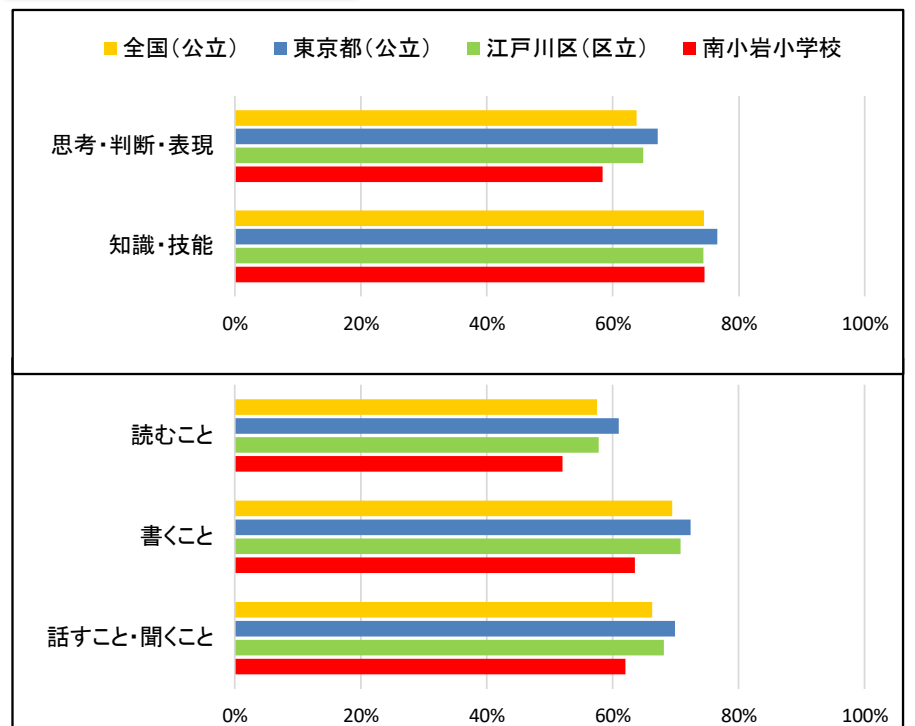
正答数分布



【平均正答率の差】

南小岩小学校	63%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-7.0

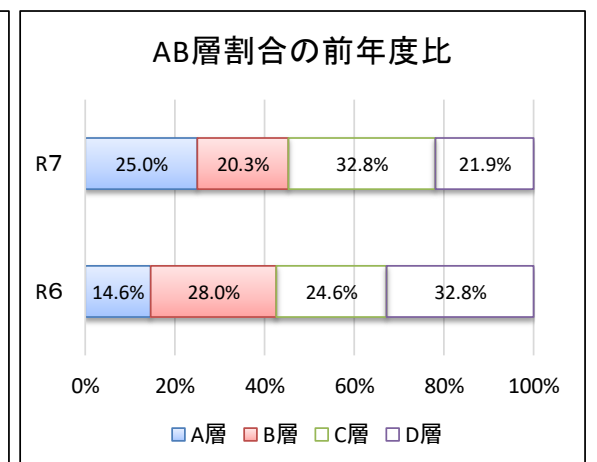
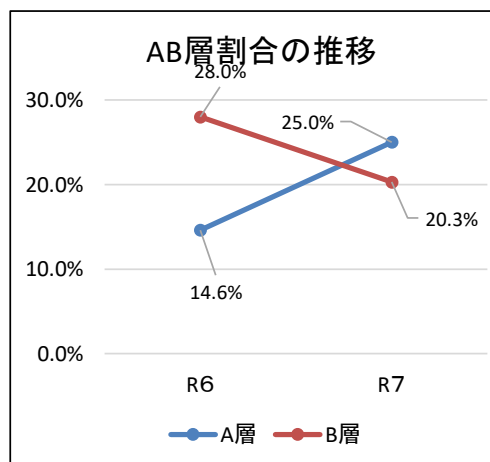
「領域別」の結果



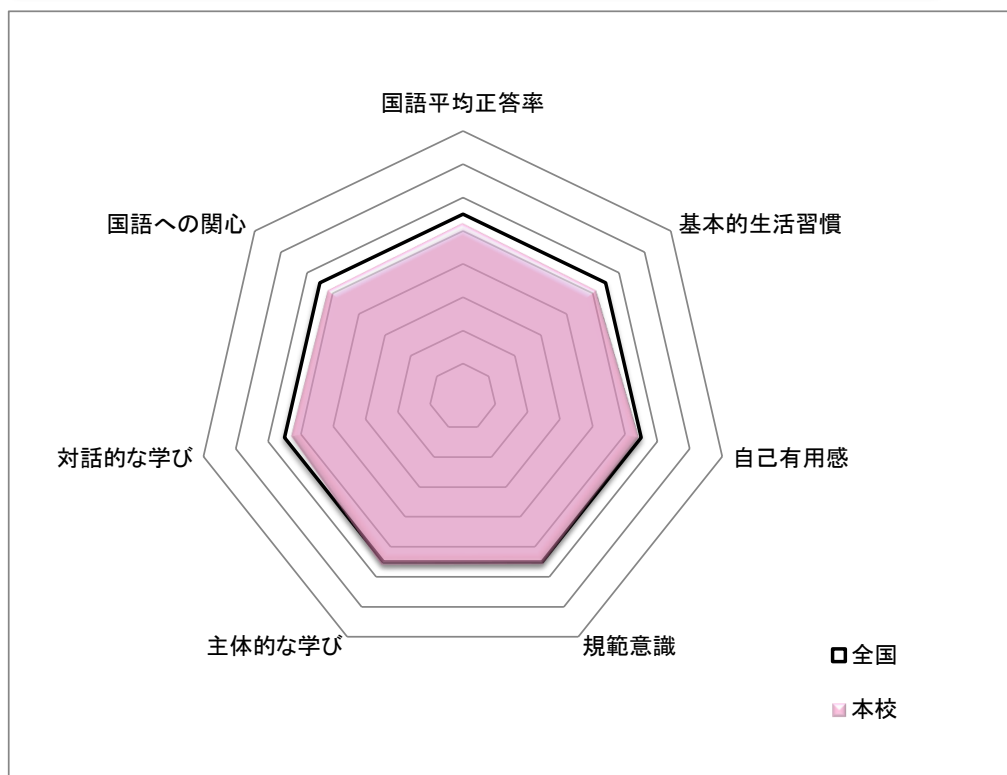
四分位における割合（都全体の四分位による）

国語	上位 ← 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
南小岩小学校	25.0%	20.3%	32.8%	21.9%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

○主体的な学び、規範意識は全国平均よりも若干上回り、自己有用感は全国とほぼ同じに迫っている。これは、本校が道徳教育に力を入れて2年目となり、心力向上を掲げ、豊かな心を育む教育を継続してきたからと考える。また、保護者・地域による、学校外の活動や学習以外の行事等で、人とのふれあいを大切にしている結果である。学力が高いとは言えないが、豊かな心を育むことにより、徐々に自己有用感の向上にも繋がり、やがて、学力向上に繋がることが期待できる。

《家庭・地域への働きかけ》

○毎日10分×学年+10分の家庭学習の啓発を行い、全学年音読や漢字練習などの毎日取り組むことで上達していく内容を家庭学習として取り組ませる。また、高学年は、中学校を見据えて児童自身が計画的に取り組めるような家庭学習も行っていく。
○挨拶の徹底と場に応じた言葉遣いを家庭地域へ啓発し、上質な言語環境となるようにする。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
・AB層の合計が令和7年度45.3%となっており、令和6年度42.6%より2.7%アップした。
・A層については、10.4%の大幅アップである。
・令和7年度と令和6年度の児童や児童数が違うので単純に比較することはできないが、傾向として、江戸川区の平均をどの項目もやや下回っている。特に、思考判断表現と読むことの正答率が極端に低い。
・漢字の書き取りテストを行い、丁寧な指導やフォローアップを行っているため、その成果が知識技能として結果に表れている。また、ICTを活用し、【ミライシードのドリルパーク】を取り入れて既習事項の定着と活用を目指している。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

○道徳の校内研究を通して自己表現が活き、友達の考えから自分の考えを深めたり、広めたりする学習の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。
○YOMUよむワークシートや新聞を活用した活動などのNIE教育のミニ研修会やOJT研修などを行い、基礎学力の向上を目指し、教員一人一人のスキルアップを行う。
○CD層の学習が苦手な児童にもICTを活用し、楽しく、わかりやすい授業となるよう、学びの充実につながるアプリの情報交換を教職員間で日々行い、タブレットを効果的に活用する。

・基礎学力の保障

○基礎学力の向上を目指し、読む力の基礎となる上質で正しい日本語を学べる環境を整え、語彙力の向上を目指す。
・場に応じた話し方、挨拶の徹底を行うこと
・朝読書の時間を確実に確保すること(区立図書館から学級文庫の貸し出しを毎月入替、こども新聞をいつでも誰でも読めるワークスペースに置く)
・YOMUよむワークシートなどのNIE教育を通して思考力・判断力・表現力の基礎を養うこと

・学習習慣の確立

○学習規律の徹底を図るために、生活指導部から出されている学校のルールについて全教職員と児童、保護者が同じ意識をもてるようし、指導の一体化を目指す。
○読書科の時間や朝読書の時間に、活字を読む習慣を身に付けさせる。
○【江戸川つ子study week】を行い、ドリル学習を通して、既習事項の習熟を図る。
○漢字練習の学習を主体的にできるよう、繰り返し何度も行えるような教材を取り入れて取り組ませる。

・AB層の育成

○ICTを活用し、【ミライシードのドリルパーク】を行い、自己の得意不得意に気付けるようにし、既習事項の確実な定着と発展的な問題への取り組みを図る。
○ワークシート・ノート・タブレットなど多様なツールから自己の学びが深まるものを選択して、学習のまとめができるように、ノートづくりやタブレットのアプリの活用スキルなどの向上を図る。